

バス車両ラッピングデザイン選考審査会 審査講評

平成31年2月4日

バス車両ラッピングデザイン選考審査会

《講評》

伊賀流忍術発祥の地として「忍者市」宣言をした伊賀市を訪れる人が忍者のまちにきたことを実感でき、また市民のバス利用促進のきっかけとして、SNS等のメディアで話題となるようなまるごと忍者のバス車両ラッピングデザインを募集したところ、25 作品の応募をいただきました。

審査は、各委員がデザインの完成度に着目しながら、5作品に票を入れ、1票以上獲得した10作品について、改めて1作品ずつ議論を行いました。

最優秀賞に選ばれた本作品は、次のような点が高く評価されました。

- 忍者がぎゅっと詰まっていて、伊賀が賑やかになる印象。
- デザインの完成度が高く、他にないデザインで、ユーモアがある。
- モノトーンであるため、想像力をかき立て、街の風景を邪魔しない。
- SNSやグッズ開発など、新しいコミュニケーションのプラットフォームに繋がるエネルギーを感じる。
- 走っている風景を見てみたい、乗ってみたいと思わせる吸引力がある。

上記の評価により、全委員から支持を集めたことから、本作品を最優秀賞として選定いたしました。

最後に、最優秀賞の作品がラッピングされたバスが走ることにより、伊賀市の人々にとって自慢のバスとなり、また観光客にとってはインスタ映えも期待される伊賀市のシンボリックなバスとなることでしょう。

募集期間が短期間であったにもかかわらず、バス車両ラッピングデザイン募集にご参加いただいた皆様に感謝申し上げます、講評とさせていただきます。

《審査結果》

最優秀賞 おおえさき(京都市)

《審査日》

平成31年1月15日

《審査員》

会長 生駒 芳子（ファッション・ジャーナリスト／アート・プロデューサー）

委員 丸川 竜也(WIPE 代表)

委員 山本 忠臣(ギャラリスト・建築家)

委員 寺村 喜美子(ART SPACE IGA)

委員 水野 加奈子(三重県雇用経済部三重県営業本部担当課主幹)

《審査会の様子》

